

テーマ名:

『ひとしごと』にマッチングされる会員数を13名→23名にする!

グループ名: D 氏名: 田中 佐也加

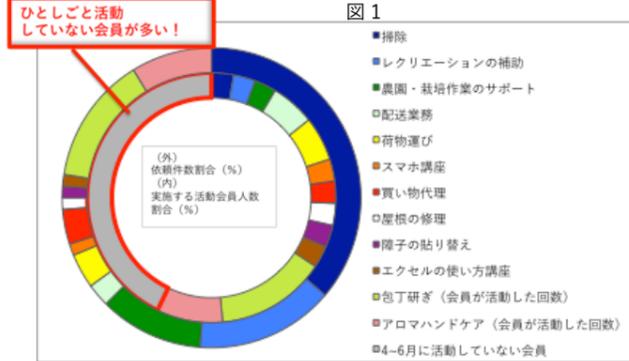
1. テーマ選定 (取り上げた理由、背景など)

大阪市浪速区拠点に事業を行う「ひとしごと館」は「地域住民が生きる社会」を目指しています。「とくい」や「好きなこと」を持つ活動会員が地域で困っている人の依頼を受けて、謝金を得ながら掃除や家具の修理、包丁研ぎ、アロマハンドケアなどを行っています。ただ、活動会員が登録をしても、多数の会員の「とくい」が活かされず、一部の会員に多くの活動の依頼がなされている状態です。自立運営を続けるため、またビジョン実現のためにも、活動会員の活躍機会を増やす仕組みを構築することは必至です。

2. 現状把握

- 会員数 2018年9月末時点 活動会員35名・利用会員17名・法人会員2団体・イベント会員3名
●ひとしごとの回数・種別割合 (2018年4月~6月80件 (表1・図1))

Table with 5 columns: 依頼内容, 実施活動会員人数(名), 全体内割合(%), 依頼件数(件), 全体内割合(%). Rows include 合計, 掃除, レクリエーションの補助, etc.



・2018年4月から6月の活動を、活動会員のうち13名(37.1%) (うち8名が包丁研ぎ、アロマハンドケア) が活動を行う

・一部の会員が大部分のひとしごとをリピートしており、

80件のうち50件(62.5%)を3名の会員が行っている

・会員の中でひとしごと活動できていない人が多い

▷利用したいニーズと会員が活動を希望する分野のギャップがあるのでは?

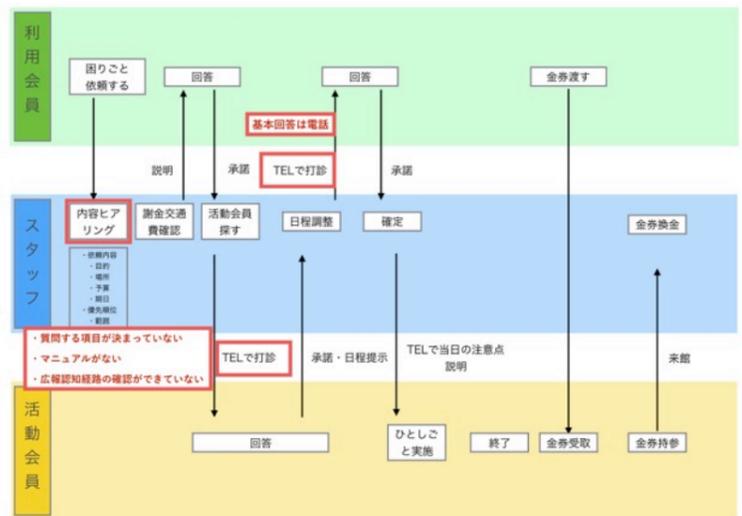
▷ニーズが高く、活動として「やってみたい」という要望も

高い「包丁研ぎ」「アロマハンドケア」の活動をより展開すること

が実施回数を高めることにつながるのでは?

●マッチングフロー図 (右図)

ニーズと会員のギャップを把握するフローが決まっていない

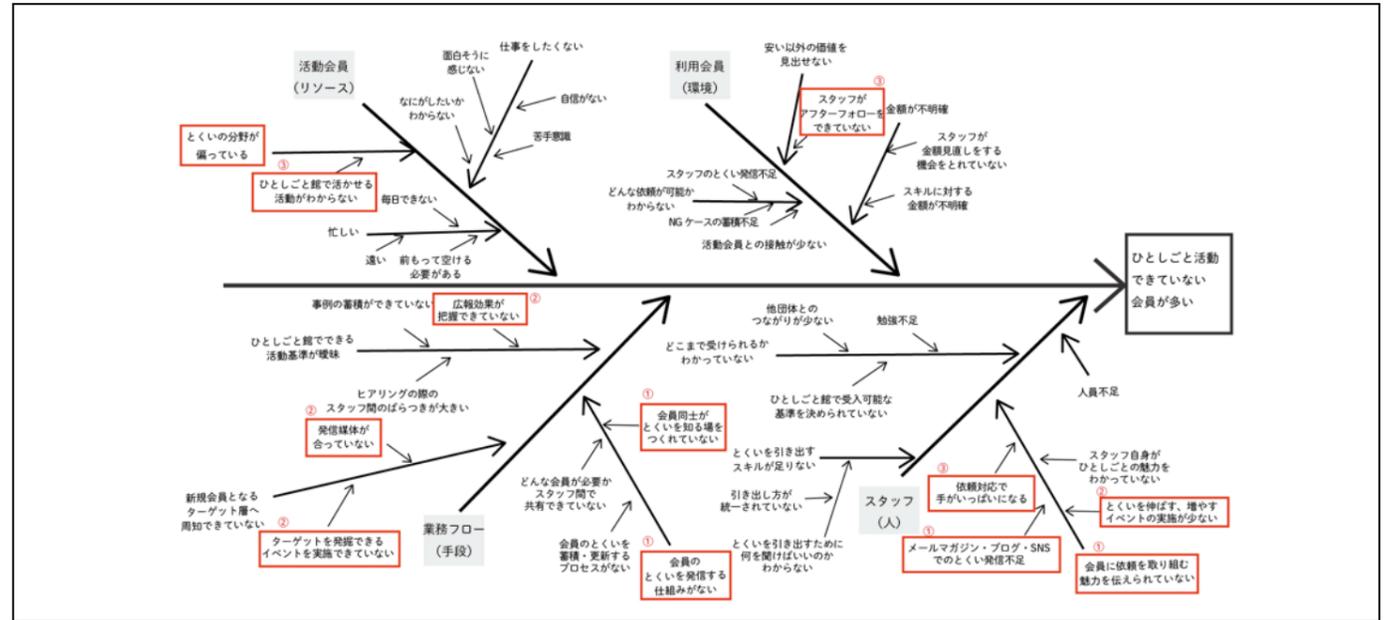


3. 目標設定

2018年10月末までにひとしごととマッチングで今まで活動したことがない会員5名が関わられるようになる (全18名が一度はひとしごとに関わるようにする (ひとしごと活動への接触頻度を上げる/1人でも定期的な活動をする人を多くしたい))

→2019年3月末までには既存/新規会員に関わらず、掃除や現在ニーズの高い定期的なひとしごとに関わる会員、あるいは包丁研ぎ・アロマハンドケアに関わる会員を計5名増加させる (全23名の会員がひとしごと活動を実施したことがある状態)

4. 要因分析



5. 対策立案・実施および効果の確認

Table with 5 columns: 真因, 対策内容, 担当, 実施事項と効果, 評価. Contains 3 rows of countermeasures and their results.

6. 標準化と総合評価

2018年9月末時点で活動会員が18名ひとしごとに関わっている状態 (稼働率: 51.4%)。コルクボードに依頼内容を掲載した部分から新しい活動会員が生まれていることから、「ひとしごと」自体の内容がどんなものかを適切に発信する必要性がある (依頼情報の定期的な発信)。

総合評価



7. 振り返りおよび今後の進め方、所感、等

順を追って問題解決のフローにあたることで、現場の運営スタッフと問題点や現状について目線を揃えて共有できた。運営の仕組みなど日頃後回しになっている部分に対して意識が高まり、改善するアクションを全員で実施できたことが何よりもよかった。今後はイベントの実施、イベント後のコミュニケーション方法、広報の継続に力を入れていきたい。